

1.	①	11.	②	21.	②	31.	①	41.	③
2.	③	12.	④	22.	④	32.	②	42.	②
3.	③	13.	②	23.	③	33.	④	43.	④
4.	②	14.	②	24.	②	34.	④	44.	④
5.	①	15.	④	25.	①	35.	④	45.	①
6.	①	16.	④	26.	④	36.	①	46.	①
7.	④	17.	②	27.	④	37.	④	47.	②
8.	②	18.	②	28.	②	38.	③	48.	④
9.	①	19.	②	29.	①	39.	①	49.	②
10.	④	20.	①	30.	④	40.	④	50.	①

1.

解答 ①

【解説】

正解は①の『state』です。この単語は、人や物事の、ある時点での様子やありさま、つまり「状態、様子」を指す名詞です。精神的な状態、物理的な状態、健康状態など、非常に幅広い「状態」を表すことができます。他の選択肢も似たような響きや意味合いを持つことがありますが、異なります。②の『stage』は、発達や計画の「段階、ステージ」や、演劇の「舞台」を指します。③の『step』は「一歩、歩み」や、手順の「段階」。④の『space』は「空間、宇宙」です。文脈から、心の「状態」を表す『state』が最も適切です。

◆補足：『state』には、アメリカなどの「州」や、国家としての「国」という意味もあります。これも非常に重要な意味なので、併せて覚えておきましょう。動詞としては、「～を（公式に）述べる、明言する」という意味で使われます。このように多義語なので、文脈で意味を判断する力が必要です。例文: "He was in a state of shock after the accident." (事故の後、彼はショック状態にあった。)

2.

解答 ③

【解説】

正解は③の「独力で、一人で」です。この表現は、他人の助けを借りずに「自分自身の力で」何かを成し遂げること、または、他に誰も一緒にいない「一人だけで」いる状態を示します。文脈によって「独力で」と「一人で」のどちらのニュアンスが強いかが決まります。他の選択肢は、それぞれ異なる意味を表す表現です。①「自分自身のもの」は 'one's own' (例: my own car)。②「自分のために」は 'for oneself'。④「自分のやり方で」は 'in one's own way' となります。どれも 'own' を使った重要な表現なので、この機会に整理しておくとい良いでしょう。

◆補足：one's の部分は、主語に合わせて "my", "your", "his", "her" などに変わります。'alone' や 'by oneself' とほぼ同じ意味で使うことができます。例文: "He learned how to cook on his own by watching online videos." (彼はオンライン動画を見て、独力で料理を学んだ。) "She has been living on her own since she graduated from high school." (彼女は高校を卒業して以来、一人で暮らしている。)

3.

解答 ③

【解説】

正解は③の『safe』です。この単語は、危険がない、または危険から守られている状態を表す形容詞です。日本語の「安全な」という言葉とほぼ同じ意味で、場所、物、行動など、幅広い対象に使うことができます。他の選択肢も場所の状態などを表す形容詞ですが、意味が異なります。①の『quiet』は「静かな」。②の『calm』は、天候や海が「穏やかな」、または人が「落ち着いている」という意味です。④の『private』は「私的な、個人の」という意味です。これらの単語との意味の違いを明確に理解しておくことが大切です。

◆補足：『safe』とよく似た単語に、動詞の『save』があります。『save』には「～を救う」「～を節約する」などの意味がありますが、品詞が違うので混同しないようにしましょう。『safe』の対義語は、否定の接頭辞 'un-' を付けた『unsafe』(安全でない)です。また、名詞形は『safety』(安全、安全性)となります。これらの派生語も一緒に覚えておきましょう。

4.

解答 ②

【解説】

正解は②の「記憶、思い出」です。『memory』は、過去の出来事や情報を心の中に留めておく能力、つまり「記憶力」や、心に残っている個々の「思い出」を指す名詞です。また、コンピューターの「記憶装置、メモリ」という意味でも、日本語と全く同じように使われますね。他の選択肢は、それぞれ異なる知的な能力や概念を指します。①の「記念碑」は 'monument'。③の「想像力」は 'imagination'。④の「知性」は 'intelligence' です。これらの抽象的な名詞は、人の能力や心を語る上で重要です。

◆補足：「記憶力が良い」は "have a good memory"、「記憶力が悪い」は "have a bad memory" と言います。動詞形は 'memorize' (～を暗記する)、形容詞形は 'memorable' (記憶に残る、忘れられない)です。これらの派生語も非常に重要なので、併せて覚えましょう。例文: "I have many happy memories of my school days." (私には学生時代の楽しい思い出がたくさんあります。)

5.

解答 ①

【解説】

正解は①の『pack』です。この動詞は、旅行の準備などで、カバンや箱の中に物を「詰める、荷造りする」という特定の行為を表します。スーツケースに服や必要な物を整理して入れる、というこの問題の状況に最も適した単語です。他の選択肢も物を扱う動詞ですが、ニュアンスが異なります。②の『put』と③の『place』は、どちらも「～を置く」という意味ですが、『pack』のように容器の中に整理して詰めるという特別な意味合いはありません。④の『carry』は「～を運ぶ、持っていく」という意味で、荷造りした後の行動を指します。

◆補足：対義語、つまり「(カバンなどから) 荷物を出す」は『unpack』となります。否定の接頭辞 'un-' が付くだけなので、セットで覚えやすいですね。また、『pack』は名詞として「包み、一箱」という意味もあります。例文: "I have to start packing for my trip to Hawaii tomorrow." (明日、ハワイ旅行のための荷造りを始めなければならない。)

6.

解答 ①

【解説】

正解は①の「サーフィンをする、ネットサーフィンをする」です。動詞の『surf』は、もともとサーフボードに乗って波に乗る、つまり「サーフィンをする」という意味で使われます。そして、そのイメージから転じて、インターネット上の様々なウェブサイトを次から次へと見て回ることを「ネットサーフィンをする」と言う際にも、この単語が使われるようになりました。今では後者の意味で使われることの方が多くなり、非常に一般的な表現になっています。他の選択肢は、それぞれ全く異なる意味の動詞です。②は 'serve'、③は 'survive'、④は 'survey' や 'research' となります。'surf', 'serve', 'survive', 'survey' はスペルが似ているので、意味をしっかりと区別しましょう。

◆補足：インターネットの文脈では、"surf the Internet" や "surf the net" という形で使われるのが一般的です。例文: "He goes to the beach to surf every weekend." (彼は毎週末、サーフィンをしにビーチへ行く。)"I spent all night surfing the web for information for my report." (私はレポートのための情報を求めて、一晩中ネットサーフィンをした。)

7.

解答 ④

【解説】

正解は④の『necessarily』です。この副詞は、"not necessarily" の形で使われることが圧倒的に多く、その場合に「必ずしも～というわけではない」という「部分否定」を表します。全体を完全に否定するのではなく、「そういう場合もあるが、いつもそうとは限らない」というニュアンスを表現するのに非常に便利な言葉です。他の選択肢は、それぞれ異なる頻度を表す副詞です。①の『always』は「いつも」。②の『never』は「決して～ない」という完全な否定。③の『sometimes』は「時々」です。これらの単語と "not necessarily" の意味の違いをしっかりと理解しておきましょう。

◆補足：not always (いつも～とは限らない) も部分否定を表しますが、"not necessarily" の方が、より論理的な帰結を否定する、少し硬い響きがあります。形容詞形は 'necessary' (必要な) で、"It is necessary to do" (～する必要がある) という構文も重要です。例文: "A college degree does not necessarily guarantee a good job." (大学の学位が、必ずしも良い仕事を保証するわけではない。)

8.

解答 ②

【解説】

正解は②の『tiny』です。この形容詞は、「非常に小さい、ごくわずかな」という意味で、単に "small" と言うよりも、小さいことをさらに強調したい時に使われます。話者の驚きや、愛らしいという感情が含まれることもあります。ダイヤモンドのように、小さくても価値のあるものを表現するのに適しています。他の選択肢も大きさを表しますが、ニュアンスが異なります。①の『small』は、最も一般的に「小さい」を表す言葉です。③の『little』も「小さい」ですが、しばしば「かわいらしい」という愛情のこもったニュアンスを伴います。また、'a little' の形で量や程度が「少し」であることを示します。④の『weak』は「弱い」という意味で、大きさとは関係ありません。

◆補足：'tiny' は、具体的な物の大きさだけでなく、量や程度が「ごくわずか」であることを示す際にも使われます。例文: "A tiny insect was crawling on the leaf." (とても小さな虫が葉の上を這っていた。)"I felt a tiny bit of sadness when he left." (彼が去った時、ほんの少しだけ悲しさを感じた。)

9.

解答 ①

【解説】

正解は①の「到着」です。『arrival』は、動詞の 'arrive' (到着する) の名詞形で、人や物が目的地に「到着すること」や「到着した人・物」そのものを指します。空港や駅で使われることが非常に多く、電光掲示板の「到着便」の案内は、通常 "Arrivals" と複数形で表示されています。他の選択肢を見てみましょう。②の「出発」は 'departure' で、『arrival』の明確な対義語です。この二つは、空港や駅で必ずセットで使われるので、必ずペアで覚えてください。③と④の「競争相手、ライバル」は、'rival' という単語が対応します。'arrival' とスペルが少し似ているので、間違えないようにしましょう。

◆補足：new arrival というと、「新着商品」や「新入り」といった意味で使われることもあります。これも「新しく到着したもの」という元の意味から発展した使い方ですね。例文: "We are waiting for the arrival of our guests." (私たちはゲストの到着を待っています。)"Please wait in the arrival lobby." (到着ロビーでお待ちください。)

10.

解答 ④

【解説】

正解は④の「家具」です。『furniture』は、家や部屋の中にある、テーブル、椅子、ベッド、タンス、本棚といった、生活に必要な比較的大型の可動式の品物、つまり「家具」全般を指す名詞です。この単語を覚える上で最も重要なポイントは、これが数えられない名詞（不可算名詞）であるということです。そのため、"a furniture" や "furnitures" のように言うことはできず、常に単数形で扱います。他の選択肢は、全く異なる意味を持つ単語です。①の「未来」は 'future'。②の「特徴」は 'feature'。③の「生地」は 'fabric' です。スペルや発音が似ている単語に注意しましょう。

◆補足：家具の数を数えたい場合は、"a piece of furniture" (一つの家具)、"two pieces of furniture" (二つの家具) のように、"a piece of" という単位を使います。この不可算名詞の数え方は、英検でも頻出の文法事項なので、しっかりマスターしておきましょう。例文: "We need to buy some new furniture for our new apartment." (私たちは新しいアパートのために、いくつか新しい家具を買う必要がある。)

11.

解答 ②

【解説】

正解は②の『collect』です。この動詞は、趣味や研究などの目的で、特定の種類のものを系統立てて「集める、収集する」という意味で使われます。切手、コイン、アンティークなど、コレクションの対象となるものを集める際に最適な単語です。他の選択肢も「集める」に関連する動詞ですが、ニュアンスが異なります。①の『gather』は、散らばっている人や物を一か所に「集める、集まる」という意味で、より一般的な言葉です。例えば、会議のために人を集めたり、情報を集めたりする場合に使います。③の『connect』は、二つ以上のものを「～をつなぐ、接続する」という意味です。④の『choose』は、いくつかある選択肢の中から「～を選ぶ」という意味です。趣味としての「収集」には、『collect』を使うのが最も自然です。

◆補足：名詞形は『collection』（コレクション、収集物）で、これも日本語になっていますね。また、人を迎えに行くという意味で "collect someone from a place" という使われ方や、料金などを「集金する、回収する」という意味もあります。例文: "My hobby is collecting old postcards from different countries." (私の趣味は、様々な国から来た古い絵葉書を集めることです。)

12.

解答 ④

【解説】

正解は④の『though』です。この単語は、前の文の内容と、後ろの文の内容が、予想に反する意外な関係であることを示す「譲歩」を表す接続詞です。'although' とほぼ同じ意味で使うことができ、「A だけれども、B だ」という形で、A と B の対比を表現します。他の選択肢は、それぞれ異なる論理関係を示す接続詞です。①の『because』は「～なので」という理由を表します。②の『if』は「もし～

なら」という条件を表します。③の『while』は「～の間に」という時や、「一方では」という対比を表しますが、『though』が持つ「逆接」のニュアンスとは異なります。文と文の関係を正しくつなぐ接続詞は、長文読解や英作文の要となるので、それぞれの役割を正確に理解しておくことが大切です。

◆補足：『though』は 'although' よりも口語的で、会話でよく使われます。また、文末にコンマを伴って置かれると、「～だけどね、でもね」というように、付け加えるようなニュアンスで使われることもあります。(例: "It's a difficult problem, though." (難しい問題だけどね。)) 強調したい場合は 'even though' を使います。

13.

解答 ②

【解説】

正解は②の「～を許す」です。この動詞は、誰かが犯した過ちや、自分に加えられた害に対して、怒りや恨みの感情を捨てて、その人を「赦す、許す」という意味で使われます。特に、個人的・感情的なレベルでの「許し」を表す、深い意味合いを持つ単語です。他の選択肢は、それぞれ異なる態度を表す動詞です。①の「～を忘れる」は 'forget'。③の「～を断る」は 'refuse'。④の「～を認める」は 'admit' です。これらの動詞との意味の違いを明確にしておきましょう。

◆補足：似た意味の 'excuse' が、遅刻などの比較的軽い過ちを「大目に見る」というニュアンスなのに対し、『forgive』は、より深刻な過ちや裏切りなどを対象にすることが多いです。過去形は 'forgave'、過去分詞形は 'forgiven' と不規則に変化するので、注意が必要です。例文: "It was difficult, but I decided to forgive him for what he did." (それは困難だったが、私は彼がしたことを許すことに決めた。)

14.

解答 ②

【解説】

正解は②の『topic』です。この単語は、会話、スピーチ、文章などで取り上げられる「話題、議題、テーマ」を指す、非常に一般的な言葉です。ディスカッションの中心となる具体的な事柄を表します。他の選択肢も関連する単語ですが、ニュアンスが異なります。①の『title』は、本や映画、記事などの「題名、タイトル」です。③の『theme』も「テーマ」と訳せますが、作品や議論の根底に流れる、より大きな「主題」や「思想」を指すことが多いです。『topic』の方がより具体的な「話題」という感覚に近いでしょう。④の『problem』は「問題（点）」で、解決されるべき課題を指します。

◆補足：topic sentence というのは、段落の主題を簡潔に述べた文のことで、英語のライティングで非常に重要な概念です。例文: "Let's move on to the next topic on the agenda." (議題の次のトピックに移りましょう。)"The topic of today's lesson is environmental issues." (今日の授業のテーマは環境問題です。)

15.

解答 ④

【解説】

正解は④の『rapid』です。この形容詞は、物事の変化や動きが、非常に「速い、急速な」様子を表します。'fast' や 'quick' と似ていますが、『rapid』は、特に変化の速さや成長のスピードを表現する際に使われる、少しフォーマルな響きを持つ単語です。経済成長や技術の進歩など、ある程度の期間にわたる変化について述べるときによく使われます。他の選択肢は、変化の異なる様子を表す形容詞です。①の『slow』は「遅い」、②の『gradual』は「徐々の、だんだんの」で、これらは『rapid』とは逆の概念です。③の『stable』は「安定した」という意味で、大きな変化がない状態を指します。

◆補足：名詞形は 'rapidity' (速さ、迅速さ)、副詞形は 'rapidly' (急速に) です。これらの派生語も重要なので、併せて覚えておきましょう。例文: "There has been a rapid increase in the number of foreign tourists visiting Japan." (日本を訪れる外国人観光客の数が、急速に増加している。)

16.

解答 ④

【解説】

正解は④の「航海」です。『voyage』は、特に船や宇宙船による、長期間にわたる大規模な旅、つまり「航海」や「船旅」、「宇宙旅行」を指す名詞です。単なる移動というよりも、探検や発見といった、目的を持った壮大な旅というニュアンスを含みます。コロンブスのアメリカ大陸への旅などが、まさに『voyage』の典型的な例です。他の選択肢は、全く異なる意味の名詞です。①の「電圧」は 'voltage'。②の「声」は 'voice'。③の「投票」は 'vote' です。これらは 'voyage' と発音が少し似ているため、リスニングの際に混同しないように注意が必要です。

◆補足：『journey』や『trip』も「旅」を意味しますが、'voyage' は海や宇宙を渡る旅に限定して使われるのが大きな特徴です。これらの単語の使い分けができると、表現がより豊かになります。動詞としても「航海する」という意味で使われます。例文: "The voyage across the Pacific Ocean took more than two weeks." (太平洋を横断する航海は、2週間以上かかった。)

17.

解答 ②

【解説】

正解は②の『calmly』です。この副詞は、人の行動が、興奮したり、慌てたり、怒ったりすることなく、「落ち着いて、穏やかに」行われる様子を表します。形容詞の 'calm' (落ち着いた、穏やかな) に '-ly' が付いて副詞になった形です。パニックになるような状況で冷静に行動する、というこの問題の文脈に最も適しています。他の選択肢は、行動の異なる様子を表す副詞です。①の『quickly』は「速く」。③の『loudly』は「大声で」。④の『slowly』は「ゆっくりと」です。これらの副詞は、動詞を修飾して、動作がどのように行われたかを具体的に説明する上で欠かせません。

◆補足：calm down という句動詞は、「落ち着いて！」と相手をなだめる際の決まり文句です。これも併せて覚えておくと便利ですね。例文: "Even though everyone else was panicking, she calmly explained the situation." (他の誰もがパニックに陥っていたにもかかわらず、彼女は落ち着いて状況を説明した。)

18.

解答 ②

【解説】

正解は②の「普通でない、珍しい」です。『unusual』は、形容詞の 'usual' (いつもの、普通の) に、否定を表す接頭辞 'un-' が付いた単語です。その成り立ちからも分かるように、「普通ではない」というのが中心的な意味で、そこから「珍しい、まれな、奇妙な」といった意味で使われます。普段あまり見かけない光景や、日常的ではない出来事などを描写する際に使います。他の選択肢は、それぞれ全く異なる意味を持つ形容詞です。①の「いつもの」は、対義語である 'usual'。③の「役に立たない」は 'useless'。④の「人気がない」は 'unpopular' です。これらも 'un-' が付く否定の形なので、セットで覚えると効率的です。

◆補足：珍しい、という点では 'rare' という単語もありますが、'rare' が希少価値の高さを暗示することがあるのに対し、'unusual' は、単に「普通と違う」という点を強調します。例文: "It's unusual for him to be late for school." (彼が学校に遅刻するなんて珍しい。) "She has a very unusual name." (彼女はとても珍しい名前をしている。)

19.

解答 ②

【解説】

正解は②の「～を専攻する」です。この表現は、大学や専門学校などで、特定の学問分野を専門的に学ぶ、つまり「～を専攻する」という意味で使われます。学生が自分の専門分野について話す際には、必ずと言っていいほど使われる非常に重要な熟語です。'major' は名詞として「専攻科目」、形容詞として「主要な」という意味も持ちますが、ここでは動詞の 'in' と結びついて「専攻する」という行為を表します。他の選択肢は、それぞれ全く異なる意味の表現です。①は 'play a major role in'、③は 'be impressed with'、④は 'investigate' などが対応します。

◆補足：What is your major? (あなたの専攻は何ですか?) や "What did you major in at college?" (大学では何を専攻しましたか?) は、自己紹介の場面で頻繁に使われる質問です。答え方としては、"I'm majoring in economics." (経済学を専攻しています。) や "My major is history." (私の専攻は歴史学です。) のように言います。

20.

解答 ①

【解説】

正解は①の「～する価値がある」です。『be worth ～』は、後ろに名詞や動名詞（doing）を伴って、「～の価値がある」や「～する価値がある」という意味を表す、非常に重要な表現です。お金や時間、労力を費やすだけの価値が、その物事にあることを示します。例えば、"This book is worth reading."（この本は読む価値がある）のように使います。他の選択肢は、それぞれ異なる意味の表現です。②「～する資格がある」は 'be qualified to do' や 'deserve to do'。③「～する義務がある」は 'be obligated to do' や 'have a duty to do'。④「～する予定である」は 'be going to do' や 'be scheduled to do' です。

◆補足：『be worth ～』の後ろには、名詞（例: This watch is worth \$100.）や、この問題のように動名詞（～ing）が来ます。不定詞（to do）は来ないので、文法的な形にも注意しましょう。例文: "The view from the top of the mountain was worth the long climb."（山の頂上からの眺めは、長い時間をかけて登る価値があった。）

21.

解答 ②

【解説】

正解は②の「～より下に」です。前置詞または副詞として使われる『below』は、ある基準点や位置よりも「下に、下の方に」という場所やレベルを示します。前の問題の 'under' と似ていますが、『below』は必ずしも真下にあるとは限らず、単に「より低い位置」を指す、より広い意味で使われることが多いです。また、温度や平均点など、抽象的なレベルが「～未満で、～以下で」と言う際にもよく使われます。他の選択肢は、それぞれ異なる位置関係を表します。①「～の間に」は 'between' や 'among'。③「～を越えて」は 'over' や 'beyond'。④「～の向こうに」は 'beyond' や 'on the other side of' です。

◆補足：'under' と 'below' の使い分けは少し難しいですが、一般的に、'under' が何かに覆われて「真下」にある状態を指すことが多いのに対し、'below' は単に垂直方向の位置関係として「より低い」ことを示します。例文: "Please do not write below this line."（この線の下には書かないでください。）"The temperature dropped below zero last night."（昨夜、気温は氷点下に下がった。）

22.

解答 ④

【解説】

正解は④の『frame』です。この単語は、写真、絵、鏡などの周りを囲む「枠、額縁」を指します。日本語の「フレーム」と全く同じ感覚で使うことができます。他の選択肢も、何かを囲んだり入れたりするものですが、意味が異なります。①の『border』は、国と国との「国境」や、ページの余白の「縁、へり」などを指します。②の『case』は、物を保護したり持ち運んだりするための「箱、ケース」で

す。例えば、メガネケース (eyeglass case) などですね。③の『panel』は、壁やドアなどにはめ込まれる「羽目板、パネル」や、討論会の「パネリスト」などを指します。

◆補足：『frame』は、建物の「骨組み」や、メガネの「フレーム」など、様々なものの「枠組み」を指す言葉として広く使われます。また、動詞としては「～を枠にはめる」という意味になります。例文: "I bought a beautiful wooden frame for my family photo." (私は家族写真のために、美しい木製の額縁を買った。)

23.

解答 ③

【解説】

正解は③の『colored』です。この単語は、動詞の 'color' (～に色を付ける) の過去分詞から来た形容詞で、「色の付いた、色彩のある」という意味です。もともと色がついていなかったものに、後から色が付けられたというニュアンスを含むことがあります。この問題の「色鉛筆」は "colored pencils" と言うのが最も一般的で、まさにこの単語が使われます。他の選択肢も鉛筆を修飾できる形容詞ですが、意味が異なります。①の『sharp』は「鋭い、尖った」という意味です。鉛筆を削った直後の状態ですね。②の『dark』は色が「暗い、濃い」ことを表します。④の『bright』は色が「明るい、鮮やかな」ことを表します。これらは色の種類や状態を表しますが、「色が付いている」こと自体を表す『colored』が最も適切です。

◆補足：歴史的な文脈、特にアメリカ合衆国においては、有色人種、特にアフリカ系の人々を指す言葉として使われていましたが、現在ではこの用法は侮蔑的で不適切と見なされています。教材などで古い文章を読む際にはこの意味で出てくる可能性がありますが、現代の日常会話では「色付きの」という意味で使うのが基本です。例文: "She used colored lights to decorate her room for the party." (彼女はパーティーのために、部屋を色付きの電球で飾った。)

24.

解答 ②

【解説】

正解は②の『pride』です。この単語は、自分自身の価値や、自分が成し遂げたこと、自分と関係のある人や物事に対する、満足感や自尊心、つまり「誇り、プライド」を意味する名詞です。前の問題の形容詞 'proud' (誇り高い) の名詞形ですね。他の選択肢は、スペルや発音が似ていて間違いやすい単語です。①の『praise』は「賞賛、ほめ言葉」。③の『prize』は、競争などで勝ち取る「賞、賞品」。④の『price』は、商品の「価格、値段」です。これらの単語は意味が全く異なるので、混同しないように注意が必要です。

◆補足：「～に誇りを持つ」と言いたい時は、"have pride in ～" や "take pride in ～" という決まった言い方をします。また、「プライドが高い」は "have a lot of pride" や、少しネガティブな意味で "be too proud" と表現することもあります。例文: "She takes great pride in her beautiful garden." (彼女は自分の美しい庭に大きな誇りを持っている。)

25.

解答 ①

【解説】

正解は①の『lock』です。この単語は、動詞として、鍵を使ってドアや窓、箱などを「～に鍵をかける、施錠する」という意味です。安全のために、誰も入れないようにする行為ですね。他の選択肢は、ドアなどに関する別の動作を表します。②の『close』と③の『shut』は、どちらも開いているドアや窓を「～を閉める、閉じる」という一般的な動作を指します。鍵をかけるかどうかは含みません。④の『open』は「～を開ける」で、これらとは逆の行為です。これらの基本的な動詞は、日常生活の動作を描写する上で欠かせないので、それぞれの意味を正確に理解しましょう。

◆補足：『lock』の対義語、つまり「鍵を開ける」は『unlock』です。否定の接頭辞 'un-' が付くだけなので、覚えやすいですね。また、『lock』は名詞として「錠、鍵」そのものを指すこともあります。例文: "Did you lock the car doors?" (車のドアに鍵をかけた?)

26.

解答 ④

【解説】

正解は④の「電子工学、電子機器」です。『electronics』は、電子の動きを応用した技術分野、つまり「電子工学」を指します。また、その技術を使って作られた製品、すなわち「電子機器」(テレビ、コンピューター、スマートフォンなど) そのものを指す場合も非常に多いです。通常、複数形の 's' を付けて使われ、学問分野を指す場合は単数として扱います。他の選択肢は全く異なる単語です。①の「優雅さ」は 'elegance'。②の「電気」は 'electricity'。③の「エレベーター」は 'elevator' です。スペルや発音が似ている単語に惑わされないよう、正確に覚えましょう。

◆補足：電気製品店は "an electronics store" と言います。形容詞形は 'electronic' (電子の) で、"electronic mail" (電子メール、Eメール) のように使われます。この 'electronic' と、電気の力で動く一般的な機器を指す 'electric' (電気の) との使い分けも、重要なポイントです。

27.

解答 ④

【解説】

正解は④の「姿、数字、図」です。『figure』は、非常に多くの意味を持つ重要な多義語です。まず、人の「姿、体型」や、人や動物の形をした「像、置物」(日本語のフィギュア)を指します。次に、計算や統計などで使われる「数字」という意味も非常に重要です。会社の売上高 (sales figures) などがその例です。さらに、本や論文などで使われる、説明のための「図」や「図表」も指します。このよう

に、文脈によって全く異なる意味になるため、注意が必要です。他の選択肢は、それぞれ① 'feeling', 'sensation'、② 'scenery', 'landscape'、③ 'history' となり、'figure' の意味とは異なります。

◆補足：動詞として使う場合は、「～と思う、考える」や「～を計算する」「～を理解する」といった意味で使われます。"I figured that he would be late." (彼が遅刻するだろうと思った。) のように使います。熟語の "figure out" (～を理解する、解決する) も頻出なので、必ず覚えておきましょう。

28.

解答 ②

【解説】

正解は②の「精選品、選ばれたもの」です。『selection』は、動詞の 'select' (～を選ぶ) の名詞形で、二つの主な意味があります。一つは「選ぶこと、選択」という行為そのもの。もう一つは、注意深く「選び抜かれた物（や人）の集まり、品揃え」です。この問題では後者の意味が問われています。例えば、お店の商品の「品揃え」や、CD に収録されている「選りすぐりの曲」などがこれにあたります。他の選択肢は、それぞれ全く異なる意味を持つ名詞です。①の「指示」は 'instruction' や 'direction'。③の「正解」は 'correct answer'。④の「提案」は 'suggestion' や 'proposal' です。

◆補足：動詞の 'select' は、'choose' と同じ「～を選ぶ」という意味ですが、'select' の方がより慎重に、注意深く選び出すという、少しフォーマルな響きを持つことがあります。形容詞形は 'selective' (選択的な、えり好みする) です。例文: "This shop has a wide selection of cheeses from around the world." (この店は、世界中から集めた幅広い種類のチーズを品揃えしています。)

29.

解答 ①

【解説】

正解は①の『mechanical』です。この単語は、名詞の 'machine' (機械) の形容詞形で、「機械に関する、機械の力で動く」という意味を表します。この問題の「シャープペンシル」は英語で "a mechanical pencil" と言い、内部の機械的な仕組みで芯を送り出すことから、この形容詞が使われます。他の選択肢は、それぞれ異なる性質や方式を表します。②の『magical』は「魔法の、不思議な」。③の『manual』は、「手作業の、手動の」という意味で、機械を使わないことを示す対義語です。④の『electronic』は「電子的な」という意味で、コンピューターのように電気回路で動くものを指します。これらの単語は、製品の仕組みや性質を説明する際によく使われるので、対比させて覚えておくの良いでしょう。

◆補足：『mechanical』は、人の行動などが、感情のこもっていない「機械的な、無意識的な」様子を表す際にも使われます。名詞形は 'mechanic' (機械工、修理工) や 'mechanics' (機械工学) です。これらの派生語も重要なので、併せて覚えておきましょう。

30.

解答 ④**【解説】**

正解は④の「出口」です。『exit』は、建物や部屋、乗り物などから「外へ出るための通路」、つまり「出口」を指す名詞です。劇場、駅、高速道路など、様々な公共の場所でこの表示を見かけますね。非常口は "emergency exit" と言います。他の選択肢は、それぞれ全く異なる意味を持つ単語です。①の「入口」は 'entrance' で、『exit』の明確な対義語です。この二つは、建物の案内表示で必ずセットで使われるので、ペアで覚えましょう。②の「入場」は 'entry' や 'admission'。③の「例外」は 'exception' です。

◆補足：『exit』は動詞として「退場する、退出する」という意味でも使われます。演劇で俳優が舞台から去る際の指示書きなどで見られます。しかし、日常会話で「外へ出る」と言う場合は、"go out" や "leave" を使う方が一般的です。まずは名詞の「出口」という意味をしっかりとマスターすることが大切です。例文: "The emergency exit is at the back of the bus." (非常口はバスの後方にあります。)

31.

解答 ①**【解説】**

正解は①の『ceremony』です。この単語は、社会的な、または宗教的な特別な機会に行われる、形式にのっとった行事、つまり「式典」や「儀式」を指す名詞です。入学式、卒業式、結婚式、授賞式など、私たちの生活における様々な節目で行われるフォーマルなイベントがこれにあたります。他の選択肢は、それぞれ全く異なる意味を持つ単語です。②の『certificate』は、何かを証明するための「証明書」や「修了証書」です。卒業式でもらうのは 'diploma' や 'certificate' です。③の『character』は、人の「性格」や、物語の「登場人物」を指します。④の『opportunity』は「機会、チャンス」という意味です。これらの単語も、人生のイベントについて語る際によく使われるので、区別して覚えておきましょう。

◆補足：結婚式は "a wedding ceremony"、卒業式は "a graduation ceremony"、開会式は "an opening ceremony" のように、何の式典なのかを具体的に示す言葉と一緒に使われることがほとんどです。例文: "The opening ceremony of the Olympic Games was watched by millions of people around the world." (オリンピックの開会式は、世界中の何百万人もの人々によって視聴された。)

32.

解答 ②**【解説】**

正解は②の「無料で」です。この表現は、お金を支払う必要がないこと、つまり「無料で、ただで」という意味で使われる、非常に一般的な口語表現です。'free' という単語自体に「無料の」という意味の形容詞の用法がありますが、"for free" という形で副詞句として使われることがとても多いです。他の選択肢は、それぞれ異なる状況を表します。①の「景品として」は 'as a prize'。③の「自由に」は

'freely'. ④の「有料で」は 'for a fee' や 'for a charge' となります。「無料」と「自由」はどちらも 'free' という単語に関連しますが、文脈によって意味が異なるので注意が必要です。

◆補足：「無料で」を意味する他の表現として、'for nothing' や 'without charge' があります。これらも併せて覚えておくと、表現の幅が広がります。例文: "You can download this software for free from their website." (彼らのウェブサイトから、このソフトウェアを無料でダウンロードできます。)

"Children under six can enter the museum for free." (6歳未満の子供は、無料でその博物館に入ることができます。)

33.

解答 ④

【解説】

正解は④の「望む、願う」です。動詞の『hope』は、未来に良いことが起こることを「望む、願う」という、ポジティブな気持ちを表します。実現の可能性があることに対して使われるのが基本で、単なる願望というよりは、実現することへの期待が含まれています。他の選択肢は、未来に対する異なる態度を表します。①の「恐れる」は 'fear'。②の「期待する」は 'expect'。③の「計画する」は 'plan' です。特に 'expect' と 'hope' の違いは重要です。『hope』が良いことが起こることを「願う」のに対し、『expect』は、良いか悪いかにかかわらず、何かが起こるだろうと「予期する、予想する」という、より客観的なニュアンスです。

◆補足：I hope (that) ... の形で、「…であることを望みます」と表現するのが最も基本的な使い方です。'that' は省略されることがよくあります。例文: "I hope you have a wonderful time on your trip." (旅行が素晴らしい時間になることを願っています。)"I hope to see you again soon." (また近いうちにお会いしたいです。)のように、後ろに to 不定詞が来ることもあります。

34.

解答 ④

【解説】

正解は④の「校長」です。『principal』は、名詞として、学校の最高責任者である「校長」を指します。特にアメリカ英語でよく使われます（イギリス英語では 'headmaster' や 'headmistress' が使われることが多いです）。他の選択肢は、学校にいる別の人々を指します。①の「生徒」は 'student'。②の「保護者」は 'parent' や 'guardian'。③の「先生」は 'teacher' です。これらの学校関連の人物を表す単語は、基本的な語彙として必ず覚えておく必要があります。

◆補足：『principal』には、形容詞として「主要な、最も重要な」という意味もあります。"the principal reason" (主な理由) のように使います。名詞の「校長」も、「学校で最も主要な人物」と考えると、意味の関連性が理解しやすいかもしれません。また、スペルがよく似た『principle』(主義、原則) という単語との混同には、特に注意が必要です。

35.

解答 ④

【解説】

正解は④の『hurry』です。この動詞は、「急ぐ、急いで行く、～を急がせる」という意味で、何かを通常よりも速いペースで行うことを示します。特に、時間に遅れそうな時や、何かを素早く終わらせる必要がある時に使われます。他の選択肢は、それぞれ異なる移動の動作を表します。①の『run』は「走る」という具体的な動作です。急いでいる時に走ることはありますが、「急ぐ」という心理状態や行為全体を指すのは『hurry』です。②の『walk』は「歩く」。③の『wait』は「待つ」で、逆の行為ですね。これらの基本的な動詞とのニュアンスの違いを理解することが大切です。

◆補足：「急いで！」と相手に促す際には、命令文で "Hurry up!" というのが定番のフレーズです。また、「急いでいる」という状態は "be in a hurry" という熟語で表現します。例文: "If we don't hurry, we'll be late for the movie." (もし急がなければ、私たちは映画に遅れてしまうでしょう。)"I'm sorry, I can't talk now. I'm in a hurry." (ごめんなさい、今話せません。急いでいるんです。)

36.

解答 ①

【解説】

正解は①の「仕事で、商用で」です。この表現は、旅行などの目的が、休暇や観光ではなく、「仕事のため」であることを示す際に使われる決まり文句です。「出張で」と訳されることも多いですね。前置詞 'on' には、「～に従事して、～の目的で」という意味合いがあり、ここでは「ビジネスという目的で」というニュアンスを表しています。他の選択肢は、それぞれ全く異なる経済状況や雇用状態を表します。②は 'business is good' や 'the economy is booming'、③は 'business is bad'、④は 'unemployed' や 'out of work' などの表現が使われます。

◆補足：旅行の目的を尋ねる入国審査などで、"Are you here on business or for pleasure?" (お仕事ですか、それとも観光ですか?) と聞かれるのは定番の質問です。この "on business" (仕事で) と "for pleasure" (観光で、楽しみで) は対比で覚えておくと非常に便利です。例文: "My father is going to London on business next week." (私の父は来週、仕事でロンドンへ行きます。)

37.

解答 ④

【解説】

正解は④の『delighted』です。この単語は、人が「非常に喜んでいる、大喜びしている」という強い喜びの感情を表す形容詞です。単に "happy" (嬉しい) と言うよりも、喜びの度合いがずっと大きいことを示します。予期せぬ良い知らせを聞いた時や、素晴らしい贈り物をもらった時など、心から嬉しく思う気持ちを表すのに最適な単語です。他の選択肢は、それぞれ異なる感情を表す重要な形容詞です。①の『disappointed』は「がっかりした、失望した」という意味。期待が外れた時の気持ちですね。②

の『surprised』は「驚いた」という意味で、良いことにも悪いことにも使われます。③の『relieved』は、心配事などがなくなって「安心した、ほっとした」という気持ちを表します。これらの感情を表す形容詞は、それぞれのニュアンスの違いをしっかりと理解しておくことが大切です。

◆補足：この単語は、感情動詞 'delight' (～を大喜びさせる) の過去分詞形です。人が主語の場合は 'delighted' (喜ばされる→喜んでいる) となり、物事が主語の場合は 'delightful' (人を喜ばせるような→楽しい、愉快的) となります。この '-ed' と '-ing' の使い分けは、感情動詞をマスターする上で最も重要なルールの一つです。例文: "I was delighted to hear the news of your success." (あなたの成功の知らせを聞いて、とても嬉しかったです。)

38.

解答 ③

【解説】

正解は③の「B と同じ A」です。この構文は、二つのものを比較して、A と B が「同じ種類のものである」または「同一のものである」ことを示す際に使われます。"A is the same as B" (A は B と同じだ) という基本的な形に、名詞の A を挟み込んだ応用形と考えると分かりやすいです。A には、比較する対象の名詞が入ります。他の選択肢は、それぞれ異なる関係性を表します。①「B のような A」は 'A like B'。②「B に関する A」は 'A about B'。④「B とは違う A」は 'A different from B' となります。比較の表現は、英語の基本なので、これらの使い分けは非常に重要です。

◆補足：'as' の代わりに 'that' が使われることもあります。特に、B の部分が文の形になっている場合に 'that' が好まれる傾向があります。例文: "I wear the same size shoes as my sister." (私は姉と同じサイズの靴を履いています。)"This is the same watch that I lost yesterday!" (これは私が昨日なくしたのと同じ時計だ！)

39.

解答 ①

【解説】

正解は①の「地域、区域、範囲」です。『area』は、特定の境界線で区切られた、あるいは特定の目的や特徴を持つ土地の一部分、つまり「地域、地方、区域」を指す、非常に幅広く使われる名詞です。都市の中の一地区、建物の特定の場所、あるいは学問の「分野」など、物理的な空間だけでなく、抽象的な「範囲」を表すこともできます。他の選択肢は、全く異なるものを指す単語です。②の「空気」は 'air'。③の「芸術」は 'art'。④の「軍隊」は 'army' です。これらも基本的な単語なので、'area' と混同しないようにしましょう。

◆補足：例えば、レストランの「禁煙席」は "the non-smoking area"、都市の「中心部」は "the downtown area"、自分の専門「分野」は "my area of expertise" のように、様々な名詞と結びついて使われます。非常に応用範囲の広い単語なので、いろいろな例文に触れて感覚を掴むのがおすすめです。例文: "This area is famous for its beautiful cherry blossoms in spring." (この地域は、春の美しい桜で有名です。)

40.

解答 ④

【解説】

正解は④の『wallet』です。この単語は、主にお札やカード類を入れるための、折りたたみ式の「財布」を指します。特に男性が使う財布を指すことが多いです。他の選択肢も、物を入れるためのアイテムですが、種類が異なります。①の『pocket』は、洋服についている「ポケット」のことです。②の『bag』は、様々な種類の「かばん、バッグ」全般を指す広い言葉です。③の『purse』も「財布」と訳せますが、こちらは主に女性が使う、小銭入れやハンドバッグを指すことが多いです。特にイギリス英語では、女性用の小銭入れを指すのが一般的です。このように、性別や形状によって単語が使い分けられることがあるのが面白いですね。

◆補足：「財布をなくす」は "lose one's wallet"、「財布を盗まれる」は "have one's wallet stolen" のように表現します。例文: "I realized I had left my wallet at home when I tried to pay." (支払いをしようとした時、私は家に財布を置き忘れてきたことに気づいた。)

41.

解答 ③

【解説】

正解は③の「2、3の～、いくつかの～」です。この表現は、「2つ（または3つ）の～」や、漠然と「いくつかの～」という、少数を表す際に使われる非常に便利な口語表現です。"couple" はもともと「一対、一組」を意味するため、厳密には「2つの」を指しますが、会話では「2、3の」という大まかな数を表すためによく使われます。後ろには複数形の名詞が続きます。他の選択肢は、それぞれ異なる数量を表します。①「たくさん」は 'a lot of' や 'many'。②「ほとんど～ない」は 'few' (数えられる名詞) や 'little' (数えられない名詞)。④「～の一組」は 'a pair of' (靴下やメガネなど、二つで一組のもの) や、文脈によっては 'a couple of' が使われることもありますが、「2、3の」という意味の方がより一般的です。

◆補足：a couple of days (2、3日)、"a couple of minutes" (2、3分)、"a couple of times" (2、3回) のように、時間や回数を表す際にも頻繁に使われます。例文: "I'll be back in a couple of minutes." (2、3分で戻ります。) "I have a couple of questions to ask you." (あなたにいくつか質問があります。)

42.

解答 ②

【解説】

正解は②の『carefully』です。この副詞は、ミスをしないように、あるいは何かを壊したり危険な状況になったりするのを避けるために、「注意深く、慎重に」行動する様子を表します。形容詞の 'careful' (注意深い) に '-ly' が付いて副詞になった形ですね。壊れやすいガラス製品を運ぶという、まさに注意が必要な状況にぴったりの単語です。他の選択肢は、それぞれ異なる動作の様子を表す副詞です。①の『quickly』は「速く」。③の『quietly』は「静かに」。④の『heavily』は「重々しく、激しく」です。これらの副詞は、動詞を修飾して、その動作がどのように行われたかを具体的に説明する上で欠かせません。

◆補足：『carefully』の反対の概念を表す副詞は『carelessly』(不注意に、うっかりと)です。この対義語も一緒に覚えておくと、表現の幅が広がります。例文: "Please read the instructions carefully before you assemble the furniture." (家具を組み立てる前に、説明書を注意深く読んでください。)

43.

解答 ④

【解説】

正解は④の『shopper』です。この単語は、店で商品を見たり買ったりする人、つまり「買い物客」を指します。動詞の 'shop' (買い物をする) に、人を表す接尾辞 '-er' が付いた形ですね。他の選択肢は、デパートなどで働く別の人々を指します。①の『clerk』は「店員、事務員」です。②の

『manager』は「支配人、店長、部長」など、管理職の人を指します。③の『security guard』は、警備や見張りをする「警備員」です。これらの単語は、お店での場面を描写する際に重要となるので、それぞれの役割を理解しておきましょう。

◆補足：『shopper』と似た言葉に 'customer' (顧客) があります。'customer' は、商品を買ったりサービスを受けたりする「客」全般を指す、より広い言葉です。『shopper』は、特に「買い物をしている」という行為に焦点が当たった言葉と言えます。例文: "The new mall is very popular among young shoppers." (その新しいショッピングモールは、若い買い物客たちの間でとても人気がある。)

44.

解答 ④

【解説】

正解は④の「普通の、標準的な」です。『normal』は、何かが大多数と同じで、典型的、標準的、平均的であることを示す形容詞です。「いつもの、通常の状態」というニュアンスで、異常な状態や特別な状態と対比して使われます。他の選択肢は、すべて『normal』とは逆の概念を表します。①の「珍しい」は 'unusual' や 'rare'。②の「特別な」は 'special'。③の「普通ではない」は 'abnormal' や 'unusual' です。『normal』の対義語である 'abnormal' は、否定の接頭辞 'ab-' が付いた形で、覚えやすいですね。

◆補足：名詞形は 'normality' (正常な状態) です。また、"return to normal" (通常の状態に戻る) という表現もよく使われます。例文: "After the festival, the town slowly returned to normal." (お祭りの

後、町はゆっくりと通常の状態に戻った。) "It's normal to feel nervous before a job interview." (就職の面接の前に緊張するのは、普通のことです。)

45.

解答 ①

【解説】

正解は①の『stand』です。この動詞は、「立つ」という意味で最もよく知られていますが、英検準2級レベルでは、否定文や疑問文で使われて「～を我慢する、～に耐える」という意味になる用法が非常に重要です。特に、'can't stand' の形で「～には我慢できない、～はうんざりだ」という強い不快感を表す決まり文句として頻繁に使われます。他の選択肢は、基本的な動作を表す動詞ですが、この文脈には合いません。②の『stop』は「やめる」。③の『start』は「始める」。④の『sit』は「座る」です。

◆補足：「我慢する」という意味では、'bear' や 'endure'、'put up with' といった単語や熟語も同じような意味で使われますが、'can't stand' は、より口語的で感情的な表現です。目的語には、名詞だけでなく、動名詞（～ing 形）が来ることもあります。例文: "I can't stand the smell of cigarettes." (私はタバコのにおいには我慢できない。) "I can't stand listening to his complaints anymore." (彼の不平を聞くのにはもう耐えられない。)

46.

解答 ①

【解説】

正解は①の『fantastic』です。この形容詞は、「すばらしい、素敵な、ものすごい」という意味で、何かを絶賛する際に使われる、非常にポジティブで感情的な言葉です。期待をはるかに超えるような、非現実的なほど素晴らしい、というニュアンスを含みます。他の選択肢は、むしろ「普通」であることを示す単語です。②の『normal』は「標準的な、普通の」。③の『regular』は「規則的な、いつもの」。④の『common』は「よくある、共通の」といった意味です。これらは『fantastic』とは正反対の概念を表しますね。

◆補足：『fantastic』は、'wonderful'、'amazing'、'terrific'、'excellent' などと同じように、何かを褒める際の語彙として非常に役立ちます。これらの単語を使い分けることで、表現がより豊かになります。もともとは 'fantasy' (空想) から来た言葉で、「空想的なほど素晴らしい」というのが元のイメージです。例文: "We had a fantastic time at the party last night." (昨夜のパーティーは、ものすごく楽しかったです。)

47.

解答 ②

【解説】

正解は②の「ユーロ（通貨）」です。『euro』は、欧州連合（EU）の多くの加盟国で使われている公式な単一通貨の名称です。記号は「€」で表されます。ニュースや海外旅行に関する話題で頻繁に登場する重要な単語です。他の選択肢もヨーロッパに関連する言葉ですが、意味が異なります。①の「ヨーロッパ大陸」は 'Europe'。③の「ヨーロッパ連合」は 'the European Union' またはその略称 'the EU'。④の「ヨーロッパ人」は 'European' です。これらの単語は、地理や国際関係について学ぶ上で基本的な語彙となりますので、しっかり区別できるようにしておきましょう。

◆補足：通貨の単位なので、"one euro"、"ten euros" のように、複数形では 's' が付きます。ただし、アイルランドでは複数形も 'euro' のまま使われるなど、地域による違いもあります。例文: "How much is this in euros?" (これはユーロではいくらですか?) "I exchanged some yen for euros at the airport." (私は空港で円をユーロに両替した。)

48.

解答 ④

【解説】

正解は④の「偶然～する」です。この表現は、"happen" が持つ「起こる」という意味から少し発展して、「(予期せず) たまたま～する、偶然～する」という意味で使われます。意図したわけではないけれど、偶然にも何かが起こった、という状況を表すのに便利なフレーズです。他の選択肢は、それぞれ全く異なる意味の表現です。①「～する必要がある」は 'need to do' や 'have to do'。②「～することになっている」は 'be supposed to do'。③「～しようと試みる」は 'try to do' です。これらの助動詞や熟語の機能の違いをしっかりと理解しておきましょう。

◆補足：Do you happen to know ...? (ひょっとして～を知っていますか?) や "I happened to see him at the station." (私は駅で偶然彼に会った。) のように、日常会話で意外とよく使われます。この表現を知っていると、偶然の出来事を自然に表現できるようになります。例文: "I happened to find a nice little cafe on my way home." (家に帰る途中、偶然すてきな小さなカフェを見つけた。)

49.

解答 ②

【解説】

正解は②の『truth』です。この名詞は、嘘や作り話ではない、本当のこと、つまり「真実、事実」を指します。客観的に証明できるかどうかだけでなく、誠実さや正直さといった道徳的な価値観を含む言葉です。他の選択肢は、主観的な概念を表す単語です。①の『opinion』は、個人の「意見、考え」。③の『feeling』は「感情、感覚」。④の『idea』は「考え、アイデア」です。これらは必ずしも真実であるとは限りません。'truth' と、これらの主観的な言葉との違いを理解することが、論理的な文章を読み解く上で重要になります。

◆補足：形容詞形は 'true' (本当の、真実の) です。また、「真実を話す」は "tell the truth" という決まり文句で表現されます。このコロケーションは必ず覚えておきましょう。対義語としては、「嘘」を

意味する 'lie' があります。例文: "You should always tell the truth, even when it is difficult." (たとえそれが困難な時でも、あなたは常に真実を話すべきです。)

50.

解答 ①

【解説】

正解は①の「体育館、ジム」です。『gym』は、'gymnasium' という単語の省略形で、二つの主な意味で使われます。一つは、学校などにある「体育館」です。バスケットボールやバレーボールなど、屋内スポーツが行われる場所ですね。もう一つは、トレーニング用の機械などが置かれている、体を鍛えるための施設「(トレーニング) ジム」です。文脈によってどちらを指すか判断します。他の選択肢は、それぞれ異なる種類の施設を指す単語です。②の「庭園」は 'garden'。③の「競技場」は、陸上競技などを行う、観客席のある屋外の施設で 'stadium' と言います。④の「博物館」は 'museum' です。

◆補足：go to the gym というと、通常は「トレーニングジムへ行く」という意味で使われることが多いです。また、学校の「体育」の授業そのものを 'gym class' と言います。例文: "I try to go to the gym three times a week to stay in shape." (私は体型を維持するために、週に3回ジムに行くようにしています。) "We played basketball in the gym after school." (私たちは放課後、体育館でバスケットボールをした。)
